曹洞俳壇

選・村松五灰子

鳴りやまぬ拍手のごとし花吹雪

秋田県　**小田嶌恭葉**

評　尚も花吹雪は次々と生まれ舞う、それはさながら高らかな喝采を自分が浴びているような錯覚に。昂ぶれる気持ちの中の花吹雪。巡り会った至福のひととき。

山笑ふどこかで意地は解くつもり

神奈川県　**大竹のり子**

評　野や川の冬の固さはほぐれ天地（あめつち）は春の息吹に輝く。肩を張って来た自分の性（さが）、意地を通して来た。もう良いだろうと。自分への慈しみ労りもあってそんな思いに。

◆**侘助やこころ誰にも覗かれず**　静岡県　堤　千春

◆**生くるもの集ふ涅槃図掛かりけり**　神奈川県　佐野　勇

◆**涅槃図の月も曇ると見ゆるかな**　岡山県　山本　雅康

◆**恋猫の修羅場と化せり寺の庭**　島根県　藤江　尭

◆**葬送の後の深雪にこもりけり**　島根県　高田美也子

◆**探梅に枝の一輪応じをり**　神奈川県　小田喜信博

◆**大寒や読むたび深む紀行文**　愛媛県　井上　征郎

◆**イーゼルの足場の迷ふつくしんぼ**　神奈川県　小野沢邦彦

◆**百才にあと千日や花の道**　静岡県　土屋きみ江

◆**冬日差す藁打石の罅（ひび）割れて**　三重県　米野てるみ

＊選者吟

杜若（かきつばた）揺らしながらに風が来る

五灰子

＊作句小見

愛知県豊田市松平郷は松平氏発祥の地。初代から九番目が徳川家康です。松平家菩提所高月院があります。小山の中腹に昔のままの素朴な寺の姿が今も見られ、司馬遼太郎が訪れて絶賛したところです。

山水の池には目高など小魚や貴種の八丁蜻蛉（せいれい）が舞う静かさです。

選者吟はこの池近くに腰を下ろしていたときの発見です。

曹洞歌壇

選・長澤　ちづ

暮れてゆく空から捕まへられぬやう鴉の羽のはばたき強し

福岡県　三吉　誠

評　押し寄せる夕闇に鴉の姿が紛れる様を、空が捕まえると捉えた点に独特の把握がある。畷に急ぐ鴉の力強い羽ばたきへ向ける眼差しにも温かく深いものがある。

若者のリュックはヒップまで下がり吾のリュックは背中膨らむ

青森県　中田　瑞穂

評　同じ背中に背負うリュックだが、若者と年配者との差異をリズムよく然り気なく表現していて説得力がある。今風の流行を決してけなしている訳ではないが、本来のリュックの機能をフルに活用している自負もうかがえる。

◆下萌えの庭にくる鳥丸まると冬の名残の姿をきそひぬ

愛知県　田中　澤子

◆寒いから明るい色の紅さすと亡母のなつかし朝の鏡に

島根県　門脇　順子

◆江戸っ子が迷子になりて日本橋恥かしながら道を問うなり

東京都　野村　信廣

◆小学唱歌調子はずれも又たのし機嫌よき日のベッドの合唱

熊本県　高木タヱ子

◆両親の卒塔婆抱きしむ孤児たちに抱えきれない幸せよあれ

宮城県　小田島麻利

◆音なしに訪いくるはボタン雪春の彼岸の墓標拭く手に

秋田県　小松　紀子

◆たすき反り決めて入幕宇良関の珍技出るかと春場所を待つ

新潟県　大橋　恒次

◆大雪に閉じ込められし終日を積んでは崩す夫婦の会話

鳥取県　山本　浩一

◆色彩も褪せることなき八橋雛かざり継がれる我が家のたから

秋田県　石川　京

◆どの家の軒にも凍み餅吊るされてここ五十沢にも春は来たりぬ

福島県　大槻　弘

＊選者詠

島と島、島の間に見える島、船上のわれら瞳を凝らす

ちづ

＊作歌小見

「寒いから明るい色の紅」の門脇さんの歌、昔の人のささやかな生活の知恵がとてもしなやか。九十五歳の高木さんの「機嫌よき日」は多分に「体調よき日」のニュアンスで施設での暮しのひとこま。そんな日が一日でも多いことを祈ります。

大本山永平寺

安居

緑深まる永平寺では、仏殿前の蓮桶の中で、蛙たちが涼しそうに遊んでいます。

永平寺をお開きになられました道元禅師さまは、寛元三（一二四五）年六月十三日に、『正法眼蔵』「安居」巻を示されました。

「安居」とは、雨期の九十日の間、仏陀が弟子たちと共に一処にとどまり、すべてのものが安らかなることを願い、坐禅修行したことに倣った仏道の作法です。

道元禅師さまは、「安居するものは仏祖の身心なり、仏祖の眼睛なり、仏祖の命根なり（九十日の、安居修行を行じるものは、仏そのものであり、仏のまなこであり、仏の命である）。」と、お示しです。

安居修行は、仏道を歩むものになくてはならない、仏祖より脈々と伝わる仏の命なのです。

この水無月の暁に、道元禅師さまもこの永平寺で、蛙声のする中で坐禅されただろうか、と禅師さまをお偲びし、自らを励まし ております。

永平寺では今日も、百六十名以上の修行僧たちが、お釈迦さまの姿となり、道元禅師さまのまなこをいただいて仏の命を行じています。

大本山永平寺／０７７６-６３-３１０２

大本山總持寺

伝光会摂心

入梅の時節となり、紫陽花が雨に映えるようになりました。

六月は「伝光会摂心」の月です。これは昭和二十一年に本山独住第十七世・渡辺玄宗禅師が私財を投じて始められた行持で七十年余の歴史があり、今年は五日（月）から九日（金）までの五日間にわたって行われます。

摂心中は、山外から特別講師（駒澤大学総長・池田魯參老師）を招き、總持寺を開かれた瑩山禅師の主著『伝光録』の提唱を聴聞し参究いたします。『伝光録』は曹洞宗の最も重要な聖典の一つで、お釈迦さまと五十二人の祖師方についてそれぞれ章を設けてお悟りの足跡や人柄が詳細に紹介され、それに対する瑩山禅師のお気持ちも数多く示されているものです。

摂心は毎年全国のご寺院・檀信徒から食事のご供養と励ましをいただくなど、多くの方々に支えられて今日に到っております。今春上山した新しい修行僧たちにとっては初めての本格的な摂心会であり、瑩山禅師のみ教えに触れる良い機会であります。また檀信徒の方々も参加できます。お問い合わせください。

これが終わりますと、夏安居も残り一ヵ月となり、解制（終了）を目指し、より一層の弁道精進に打ち込むのです。

大本山總持寺／０４５－５８１－６０２１